

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【図画工作科】

1. 対象 特別支援学校 小学部第2学年（5人）

- ・外界の人や物、その変化に気付いて反射的な反応がある児童から身近な人からの働き掛けに気付いて自分なりに反応する児童、簡単な会話ができる児童まで実態の幅が広い。中には、見え方に困難さがある児童もいる。
- ・これまでの学習において、材料や用具に対して自分から見たり触れたりする姿が増えてきた。使いたい色を選んだり腕を大きく動かして表したいイメージをもって取り組んだりする児童がいる一方で、手や体全体の感覚を働かせて材料に触れて、自然に出てきた形や色に気付かせたい児童もいる。それぞれの段階に合わせてつくりだすことに楽しさをもつことで、形や色などに気付いたり自分なりに表したいイメージをもったりすることを深めていきたい。

2. 単元名 「でてくる、かわる」（全9時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・自分が行ったことで出てきた色や形に気付き、手や体全体で絵の具を塗り広げたり素材を押しつぶしたりすることができる。（小学部1段階）
思考力，判断力，表現力等	・自分が行ったことで出てきた色や形を基にイメージをもち、材料などから表したいことを思い付くことができる。（小学部1段階）
学びに向かう力，人間性等	・つくりだすことの楽しさに気づき、進んで絵の具やスライムに触れ、色を広げたり形を変えたりすることができる。（小学部1段階）

4. 授業展開【 単元 】

解決したい課題や問い
「こんなもの（材料）を用意しました。それ、ペタン！（2、3回手本を見せる） やってみたい？みんなの動きでどんなものができるでしょうか？」 『触ってみたい！色をつけたい！どんなものができるんだろう？』

考えるための材料A	考えるための材料B
絵の具、洗濯のり、ホウ砂水、シェービングフォーム、片栗粉、トレー、小さな容器、アルミホイル、エアークラフト	・不織布×2枚（白） ・透明シート
想定される活動	想定される活動
<ul style="list-style-type: none"> ・触ってみたい（絵の具、道具、素材） ・色が着いた、色が広がった ・（絵の具が垂れて）色が混ざった ・ねばねばする ・伸びた！ ・もっと混ぜてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・（友達の様子を見て）おもしろそう ・やってみようかな ・大きく動いてみよう ・あっちにも色を広げてみよう ・もっとやろう ・足でもやってみよう ・違うスライムも作ってみたいな

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の活動から「あの方法だと大きく色が広がっているな」「私の色と〇〇さんの色が重なって色が変わった」などと気付いて、「次はあの道具を使ってみよう」「もっと色を重ねてみよう」と作りかえていくことができるように共同制作をする。 ・作りかえることを繰り返すことができるように布やビニールを使用する。 ・友達の活動に気付くことができるように、教師が「〇〇さん、これを使ったら大きく色が広がったね」「色が重なって紫色になってる」などと言語化したり、周りの教師が「あ、本当だ、やってみたい」と真似たり「面白いね」と共感したりする。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・「色が着いた」「ねばねばしているな」「べたべたと伸びる」などと色の変化や触った感じに気付いている。
- ・「もっと色を広げよう」と繰り返し絵の具を塗り広げたり、「今度は〇〇さんみたいにあの道具で試してみよう」と新しい方法で塗ったりしている。
- ・自分の行ったことで跡がついていることに気づき、「見て見て！」と教師や友達に伝えたり、「今度は違う方法で跡をつけてみたいな」と思い付いたりしている。